

東北巡拝の旅

皆さまの旅の楽しみが、そのままの復興に。
それは菩薩行です。

1200年前、みちのくは磐梯山の麓に慧日寺を創建した徳一菩薩は興福寺の僧侶です。福島復興の応援のために、徳一菩薩ゆかりの寺々と名所を訪ね、東日本大震災犠牲者慰霊法要を行います。ふるってご参加下さいますようお願い申し上げます。



1日目



2日目

①JR東京駅 旅行代金 **56,000円** 出発の場合
②JR湯本駅 旅行代金 **45,000円** 出発の場合

- 最少催行人員:16名(募集人員24名)
- 添乗員:JR湯本駅から、最終日のJR郡山駅まで同行します。
- お一人様部屋追加料金10,000円 ※お一人様部屋を希望する場合の追加料金(部屋数の関係でご希望に添えない場合がございます)
- 詳細は出発の7日前までに発送する最終確定日程表でご確認下さい。

行程表

食事

1日目 5月23日 (木)	JR東京駅 7:53発	ひたち3号 JR湯本駅 10:16/10:35	願成寺国宝白水阿弥陀堂 参拝 10:45/11:45	四倉港、常磐もののお膳 うまいもんや やまかく:昼食 12:25/13:15	朝 X 昼 O 夕 O
	806年に徳一菩薩により開かれたと伝わる寺院 臨済宗妙心寺派 熊野山宝林寺:参拝 13:30/14:15	福島八十八ヶ所霊場第一番札所 807年に徳一菩薩創建 真言宗智山派 三箱山法海寺勝行院:参拝 14:45/16:20	[宿泊ホテル] 福島県石川郡石川町字猫崎22 猫崎温泉 式部のやかた 井筒屋 TEL:0247-26-1131 FAX:0247-26-1132 17:45		

願成寺国宝白水阿弥陀堂

[がんにょうじこくはうしづみずあみだどう]

平安時代の浄土式庭園を兼ね備えた類を見ない御堂は福島県内唯一の国宝建造物。藤原清衡の娘・徳姫が、夫、岩城則道公の供養のために建立したといわれる平安時代後期の代表的な阿弥陀堂建築。美しい曲線を描く屋根と浄土式庭園が調和した、優美な姿を見せてくれます。2023年9月8日(金)に発生した台風13号に伴う豪雨災害により、内郷地区は広範囲に浸水し、お堂も床上浸水の被害を受けました。「国宝白水阿弥陀堂」を地域の復興シンボルとして、市内で被災された方々を勇気づけたいという想いから、復旧作業を進め、10月1日(日)より拝観再開の運びとなりました。

写真:(一社)いわき観光まちづくりビューロー

臨済宗妙心寺派 熊野山宝林寺

[りんざいしやうみんじんじは くまのさんほうりんじ]

大同元(806)年に徳一菩薩により開かれたと伝わるお寺。昭和38(1963)年の火災で、本堂などとともに、木の大部分を焼失しましたが見事再生しました。裏山には僧徳一作の聖観音が祀られ小久観音堂があり、境内にはシタレザクラが咲き誇ります。

写真:(一社)いわき観光まちづくりビューロー

真言宗智山派 三箱山法海寺勝行院

[しんごんしやうちんじんじは みはござんほうかいじやうぎやういん]

大同2年(807年)に徳一菩薩により開かれたと伝わるお寺。福島八十八ヶ所霊場の第一番札所。地元の人々からは「中の寺」と呼ばれ、春の桜・秋の紅葉が美しいお寺です。境内にはシタレザクラ、ソメイヨシノがあり、両桜ともに美しい姿を見せます。
●本造釈迦如来坐像(県指定重要文化財 彫刻 昭和51年5月4日)
●木造迦葉・阿難立像(市指定有形文化財 彫刻 平成18年4月28日)
●福島八十八ヶ所霊場第一番札所

写真:(一社)いわき観光まちづくりビューロー

2日目

5月24日
(金)

宿泊地 8:30発	あぶくま洞:見学 9:30/10:30	農家レストラン よりあい処 華:昼食 11:20/12:40	朝 O 昼 O 夕 X
酒蔵見学・お買い物 13:10/13:40	采女神社:参拝 14:30/15:20	やまびこ146号 JR郡山駅 16:00/16:30	
		JR東京駅 17:48	

あぶくま洞

[あぶくまどう]

悠久の時をかけて創られた大自然の造形美。全長約600mの洞内は、天井から大きく下がる鍾乳石や床下からタケノコのように堆積してできる石筍(せきじゆん)など千変万化の神秘の世界が続いています。したり落ちる地下水が自らの溶食作用によって創りあげる様々な造形美にはそれぞれに名前が付けられ、訪れる人を魅了します。三層に分かれる洞内で最大のホール「滝根御殿」では、クリスタルカーテンやボックスワーク、シールド、洞穴サンゴなど、ここでしか見ることのできない貴重な鍾乳石を間近に鑑賞することができます。



よりあい処 華

[よりあいどころ はな]

2011年に起きた原発事故で、全町避難を余儀なくされた郡路町を元気づけようと、2014年にオープンした「よりあい処 華」。その華を運営するのが、郡路町で生まれ育った今泉富代さん。震災後、暗いムードになっていた旧郡路町に不安や危機感を感じ、皆が少しでも前を向くために、何が出来るのか考え、地域の人々が集まれる場が必要なのではないかと思い至り、郡路町にある兄の実家を、様々な人たちの協力を得てリフォーム。古民家コミュニティスペース「よりあい処 華」を開店させました。



采女神社

[うねめじんじや]

古都奈良の秋の伝統行事「采女祭」。その由来となった采女伝説の「采女」は、陸奥の国安積の里(現・福島県郡山市)出身の者と伝えられており、郡山市でも毎年夏に「郡山うねめまつり」が開催されています。この采女伝説が縁となり、奈良市と郡山市は昭和46年に姉妹都市盟約宣言を締結。それぞれの祭りの際には、訪問団を派遣して親睦を図っています。奈良ともゆかりの深い「采女」をまつるこの神社は、昭和32年5月1日に山の井公園内に建立されました。



食事内容:朝食1回 昼食2回 夕食1回

※写真はすべてイメージです。